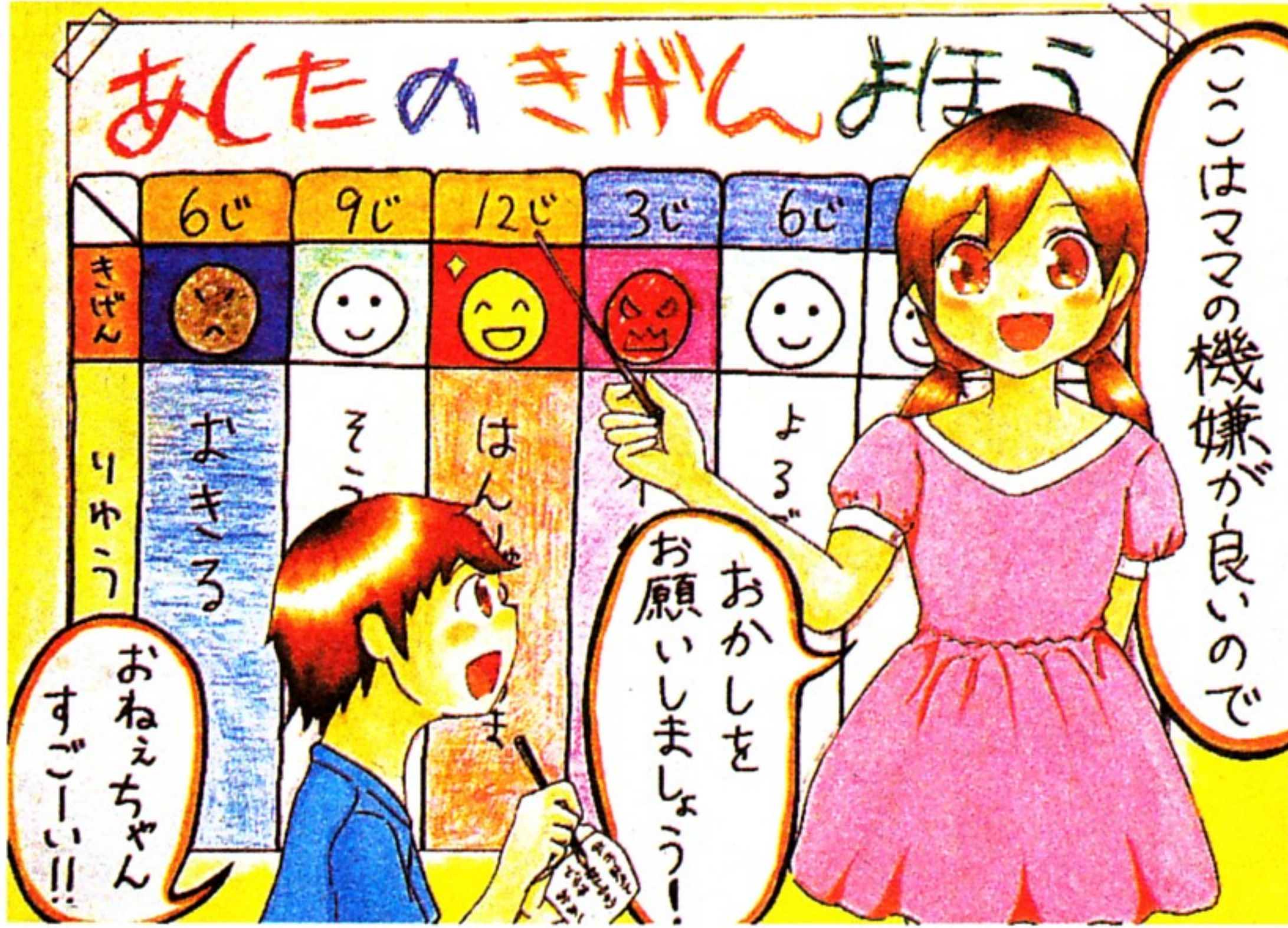


私たち、まんがが日本一

「甲子園」初制覇の豊明高

アイデア抜群「あしたの機嫌予報」 やなせさん「絵に温かみ」

漫画日本一の高校生チームに愛知県豊明市の県立豊明高校が初めて選ばれた。高知市で8月にあった第19回全国高校漫画選手権大会「まんが甲子園」(高知県など主催)。イラストレーション部の5人は普段、それぞれが好きな漫画を描いているが、決勝ではアイデアとチームワークがかみ合った。(相原亮)



Ⓛ 優勝作品 下 優勝した5人 愛知県豊明市の豊明高校



今夏の「まんが甲子園」は、全国280校の中から予選を突破した30校が本選に出場した。大会はアイデア勝負だ。予

やなせたかしさんや、西原理恵子さんら多くの漫画家を生んだ高知から、漫画を文化資源として全国に発信しよう

まんが甲子園

選のテーマは「〇〇無料化」。何を無料にするか。他校との違いをアピールすることが大切だが、奇をてらいすぎるとわかりにくくなる。1年の田中智之さん(15)は「ダイヤモンドが無料になったら」と考えた。「世界一硬い石で作った入れ歯なら、ダイコンだって生でいけるぞ!」と、元気に食べるお年寄りを描いた。

と1992年に始まった。今年で19回目。大会では、出版社がスカウトを派遣して才能ある高校生を発掘するなど、高校漫画界の一大イベントになっている。

本選も勝ち抜き、20校が残った決勝のテーマは「あしたの〇〇」。3年の内藤由香里さん(17)が、母親の機嫌が時間帯によって変わる「あしたの機嫌予報」を発案した。「今の子は親の顔色を見てい

るんじゃないかと思った」制作時間は5時間半。B2判の紙を5人で囲んで、内藤さんが人物を描き、他の4人が背景や色塗りをした。内藤さんの発案は「機嫌予報」を兄が解説する図柄だったが、話し合った結果、「お天気お姉さんの方がおもしろい」と急ぎよ、変更した。

部員は普段、書道室で好きな絵を描く。同校は美術教師がおらず、顧問の阿部敏子教諭は英語が専門。本番は5人を見守り、時にクレヨンを買

いに走った。「個々のこだわりが強いから、うまくまとまるかなと不安だったが、意見を出し合い役割を分担できた」。部長を務める2年の野村真那さん(16)は「お互いの良さを認めながら描けた」と話す。

豊明高は過去7回の出場で、4位が最高だった。ライバルには実力のある有名私立校も多い。決勝の結果は下位からの発表で、「3位に入っていない時点で『あきらめモード』だった」と内藤さん。優勝を知った瞬間はみんな、「え? うそ」と同じ言葉が口をついて出た。

「アンパンマン」作者のやなせたかしさんら審査員は豊明高の作品を「誰にでも分かりやすく伝わり、絵に温かみがある」と評価した。部の年間予算は2万円。画材をやりくりしていたが、優勝によって高価な絵の具と賞金30万円を獲得。何に使うか、うれしい悩みの種になった。